

国際教育を考える!
 語学習得だけじゃない!
 異文化交流など学ぶことが多い

海外留学

グローバル社会に備えてわが子の海外留学を検討する家庭が増えている。そこでアゴス・ジャパンの松永みどりさんに留学の現状と対策について伺った。



アゴス・ジャパン
 留学指導部マネジャー
松永みどりさん

まつなが・みどり/アゴス・ジャパンでは、MBA・LLM・大学院を目指す人たちのためのテスト対策、出願対策の指導専門校。そのほか、中学高校生を対象とした「TOEFL®TEST・SAT®TEST対策コース」と「進学・出願指導」で、海外大学への直接進学を目指すプログラムも提供している。

留学は、異文化体験を通して多くを学ぶ機会

留学する高校生の数はピーク時に比べると減ってはいるものの、[※]平成20年が3190人、平成23年が3257人とわずかであるが増加している。理由は、以前は留学生の多くが交換留学を斡旋する団体を利用してしたが、最近では、カリキュラムに留学プログラムがある高校や私費で留学させる家庭が増えているためだと思われる。また親世代も留学経験があるため、「わが子も体験させたい」と考える親が少なくないとアゴス・ジャパンの松永みどりさんは語る。

海外に赴任する機会も増え、上司や同僚が外国人ということも少なくないはず。若い時期に海外体験をすることは貴重だ。「海外は、多国籍でそれぞれ文化や宗教も異なります。たとえ言葉は通じたとしても、文化や歴史などの違いで、意思疎通がうまくいかないこともあります。そのとき、お互いの文化を受け入れて、お互いに納得できる落としどころを見付ける経験もするでしょう。これからのグローバル社会では、必ず役に立つ経験になるはずですよ」

留学前の準備と帰国後の計画が大事

とはいえ、短い期間での語学習得や異文化体験を有意義にするためには、留学前の準備と帰国後の対策が重要。留学で何を学びたいのかを明確にしておかないと、留学も単なる海外体験で終わることもあるという。「留学前における程度の語学力を身に付けておかないと選択できる授業も変わってきます。政治学や歴史といったディスカッションやレポートが必要な授業は大変ですが、話す力や書く力など語学力を更に磨くことができます。反



対に、ビジュアルアートやコンピュータグラフィックといった授業は、楽しいけれど英語を話したり書いたりすることが少ないです。語学対策をしていかないと、受けた授業があつたとしても、語学力が足りない理由から選択することができないことがあります」

そして、もう一つ日本の国の文化や政治などについても勉強しておいたほうがいいと松永さんはアドバイスする。

「ほとんどの留学先では、日本人がいないので、ある意味お子さんが日本代表です。質問は、文化や歴史、日本の政治観に至るまでさまざま。こうしたことも事前に準備すると、お互いの文化の違いを理解するうえでも、役に立つのではないのでしょうか」

そして留学後についても計画しておかないと、大学受験対策などにも影響するという。

「学校にもよりますが、単位を取得すれば、留年せずにそのまま進級することも可能です。アメリカやイギリスなどの新学年は9月がスタート。高校2年生で留学すると高校3年生の夏に帰国するので、すぐに受験勉強ということがあります。オーストラリアなどの南半球は、新学期が2

月なので、高校1年生の2月に留学しても、日本の2年生の1月には帰国できるので、受験対策が3年生の新学期から始めることが可能。もし、受験を考えて高校1年生から留学を検討するのなら、中学から語学教室に通うという計画もできるわけです」

将来子どもに留学をさせたいと思うご家庭では、通う学校の制度、留学の事前対策、帰国後の受験対策など情報収集が大事だという。では、帰国後の語学力を落とさないためには、どのようにすればいいのだろうか。

「例えば、英語圏に留学した場合、日常会話のレベルは上がりませんが、その成果が受験英語に役立つわけではありません。中には、留学前よりも文法や読解力が落ちる場合もあります。英語は筋トレと同じで、コツコツ努力すれば身に付くし、何もしないと帰国後3カ月くらいで落ちていきます。帰国後は、TOEFL®などを受けて、自分の英語力のベンチマークとして活用するなど日々の努力は必要です。何を海外留学で身に付けたいのかをもう一度親子で考えてみてください。留学の前

後対策も変わってくるのではないのでしょうか」

親のサポートはコレ!

留学前の事前準備と留学後のアフターケアが大事!

学校の制度、留学先などの情報収集

留学を単位として認めるのか、それとも留年するのか、どちらかを生徒が選択できるのかなど、進学する学校の制度はどうなっているのかを確認。また語学留学先は、交換留学にするのか、私費で留学させるのかなど、説明会やインターネットなどの体験談を事前に調べておこう。

帰国後の受験対策も視野に入れて考える

留学先によって新学年のスタートや終業式の時期が異なるため、受験対策の期間も変わる。3年生の夏に帰国する場合、受験勉強が短期になる場合もある。こういった留学先、期間を選択するのか、将来のことも視野に入れて検討しよう。

留学前に語学力を計画的に習得させておく

語学力はある程度身に付けておいた方が、留学先の選択授業が変わってくることも。語学力を更に磨き、有意義な体験にすることも1年くらい前から準備しておくこと安心。これは帰国後対策も同じ。筋トレ同様に語学力を伸ばすのも、磨くのも事前準備に左右されるのだ。

文化や生活習慣の違いでトラブルになることを想定

海外旅行気分で行くのと違い、ホストファミリーと一緒に生活するので、自分のことは自分でする、解決しなければならぬことなどトラブルはつきものだと伝えておこう。日本の文化とともに留学先の生活習慣なども事前に調べておくことが大事だ。

※文部科学省「高等学校等における国際交流の状況について」(平成20年度・平成23年度)

毎日できる会話で促す



福原正大さん
(IGS代表)

論理的に話せるよう、会話で内容を発展させていこう

日本の子どもたちには今後、もっと自己表現力を身に付けてほしいと思っています。子どもは本来、自己表現をしたいもの。でも塾などの従来の日本型勉強法だと自己表現ではなく、「言われたことを記憶して出す」という作業になってしまいます。相手にきちんと伝えるためにどう語ったらいいのか、毎日の生活の中で慣らしておくといいでしょう。食事のときなどに、「今日はどうだった？」と問いかけ、子どもの表現の中で理由なく説明していたりしたら、「その理由は？なぜ？」と問いかけます。当たり前の日常会話の中で論理的な国語力が身に付くよう促してはどうでしょうか。



物事をつなげ掘り下げる



松永みどりさん
(アコス・ジャパン留学指導部マネージャー)

物事はさまざまな事柄につながっていることを伝えて



自分なりの主張をするためには、一つの事柄がさまざまな事柄につながるということを知ったり、答えはないけれど自分はこう思うという考え方が必要に。本を読んだり、お子さんとニュースを見ているときなどに、発展させていくといいですね。ニュースを見ながら「何でこんなことが起きちゃったんだろう」とか「この国、どこにあるんだっけ。ちょっとネットで調べてみようか」なんて。調べてみたらたかさんのことにつながっていること、そして知らないことがあればすぐに調べて会話の中に盛り込めることを知っているだけで、その後のアウトプット力の訓練になると思います。

実体験に勝るものなし



齋藤ウィリアム浩幸さん
内閣府本府参与(科学技術・IT戦略担当) / 株式会社インテカー代表取締役社長

初めての場でも子どもに話をさせる

「まだ子どもだから」と親が何もかもやってしまうと、子どものアウトプットの機会を奪うことになる。「少しお洒落なレストランに連れて行って子ども自身にオーダーさせたり、海外旅行のときに空港スタッフとのやり取りを任せたりして、初めての場でも失敗を恐れずにチャレンジできるマインドを育てていくことが大切。年齢が低いうちなら、周囲も温かい目で見守ってくれるので、さまざまな場に慣れる機会をつくってあげましょう」。



子どもに料理を任せてみる



「どの材料をどう組み合わせ、どんな方法で調理すればいいかを考える作業は、自分の中にある知識を応用する力を磨くトレーニングに。また、どの順番で作ればスムーズに進められるかを考えることで、タイムマネジメントの意識も身に付きます。足りない材料があっても、それを何に差し替えばいいかを考えることで応用力や判断力が磨かれるので、レシピの通りに作る必要があるわけではありません。まずは簡単な料理から始め、慣れてきたら食材や調味料の一部を変えてみるなどして、自分流にアレンジを。」

質問を考えさせるクイズを出題する

アメリカで1960年代から放送されているクイズ番組「Jeopardy!」では、解答者に「リンゴ」といった「答え」を提示し、その答えを導くための「赤くて木になる果実は？」といった「質問」を考えさせるクイズが出題されている。「質問を考えるには、知識だけではなく、知識をもとに質問を構成する能力や文章力が必要。このクイズは、「Why」を考える能動的な学びにつながっていきます」。



アウトプット力を家庭でどう身に付けるか？